

令和5年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

【評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)】

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
教育活動全般	1	分掌活動	分掌組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な分掌運営に協力できたか	A	<p>【全体として】 今年度、「ICTを有効活用した授業改善」「常葉大学・短大への進学指導の充実」「主体的に活動できる場の提供」を目標としてきた。教員個々の役割は果たしているという感覚があるが、教員全体として見たときに、同じ目標に向かい、チームで対応するという意識が足りない面がある。 今後は、個々の力をチームとして盛り上げ、学校全体が同じ目標に向かうことができるよう工夫する。</p> <p>【生徒課】 ・今年度、生徒指導の数は少なく、生徒課の教員以外の教員とも連携し、指導ができた。 ・人間関係、スマートホン、タブレットでの指導が多く、今後も、SNSに関連する指導は徹底していきたい。 ・コロナ感染の中、学校生活を送ってきたせいとか人のコミュニケーションの取り方が上手ではない。 ・服装面で気候の変化が激しく統一できなかった。今後も季節の変化が激しい中で、柔軟に対応したい。</p> <p>【教務課】 ・学期ごとの処理、テスト計画、時間割変更など、自分の仕事を責任もって果たしたが、全体を見渡して協力できたとはいかない。 ・分掌内の一部の人間に重要な業務が偏りがちであった。分掌構成員に幅広く仕事に携わってもらい、経験値を上げることも考えていきたい。 ・議事録や特別時間割は余裕をもって作成するようにした。また、成績評価のチェックを細かく行い、各教科に共有できた。</p> <p>【進路課】 ①ガイダンス(附属高入試、入試(含む専門学校)、②模擬試験、各種検定、③書く指導(小論文や志望動機)④補習等。この4つの柱を、進路課職員で協力してできた。仕事の手順をPCに保存することで、スムーズに引継ぎができ、また少しずつバージョンアップできた。 ・附属高校入試2年目になり、教員間での情報共有も進み全員合格することができた。また看護系専門学校も合格者を増やせた。就職職希望6名全員内定をもらえた。今後も生徒の進路希望を叶えるため努力したい。</p>	<p>・学校方針がわかりやすく、ひとつひとつの言葉が精査されていると思いました。学校方針をもとに教員のベクトルを合わせることは重要です。</p> <p>・在校生、あるいは卒業生、その保護者が、心の底からこの学校に来てよかったと思うことが大事。満足なくして、どのような教育活動をしても響きません。卒業生の保護者としては、この学校でよかったという満足感があります。そういうこの学校でよかったという満足感が得られる教育をしてほしいと思います。</p>
	2	学年運営	学年組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な学年運営に協力できたか	A	<p>【高校1年】学年主任から指示された仕事を積極的にするようにした。教員の人数が少ないので大変ではあったが、全員で学年をよくしていこうと協力することができた。日頃から学年集会などで生徒に話をするようにし、学年全体で、生徒を見守る態勢ができていたように思う。ただ、目の前の仕事に精一杯で新しいことには挑戦できなかったため、今後、様々な教育活動を提案していきたい。</p> <p>【高校2年】修学旅行を中心として、集団行動や平和学習に取り組んだ。学年の教員が情報共有しながら仕事を進められた。生徒自身の達成感を高められるように取り組むことができた。これまでの慣例にとらわれず、新しい取り組みを模索する必要を感じた。放課後の補習など、工夫の余地がまだまだある。生徒主体で行事を運営できるように工夫していくことが必要である。</p> <p>【高校3年】少ない人数の教員で、学年、学年外の教員の力を借りてではあったが、進路指導を進めた。附属校入試は全員希望学部合格できた。生徒のモチベーションが上がる声かけや環境作りがもっと工夫できたのではないかと。高校3年生になってからではなく、高校1年生の時から、面接ノート作り方のガイダンスを行ったり、資料作りをしたりなど継続した進路指導をしていきたい。</p> <p>【中学】総合学習などの企画運営を、各担当者が丁寧に行った。今後、よりよい運営のために教員間でどのように仕事に関わるのがよいか、連携を深める工夫が必要である。</p>	<p>・社会の変化がめまぐるしく、複雑になっていく中では、学校が家庭を巻き込んで課題を共有することが重要である。</p> <p>・学校評価が今後、学校がよりよくなっていくための評価になるようにしていきたい。</p>
	3	コース・系列運営	コース・系列組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な運営に協力できたか	B	<p>【全体として】連携講座など、コースや系列に特色を持たせた活動が行われている。しかし、自分が関わることに以外に関心を持ちにくく、それが組織として取り組むことを妨げている面が見られる。今後、よりよい内容に変化させつつ、取り組み方に工夫をしていきたい。</p> <p>【看護・医療・健康系列】1日ナース体験、救急法競技大会、看護医療模試など取り組めた。連携講座では、病院訪問がここ数年できていないが、日赤病院のご厚意で大変有意義な講義を受けることができていた。また、系統別会議などで3年生の状況がきけ、進路指導に役立っている。今後は、教員個人の動きではなく、系統としての動きができるよう情報共有が必要である。</p> <p>【保育系列】今年度から高1の連携講座の内容を変更し、よい結果になった。オペレッタやエプロンシアターなど保育系列でこれまで行ってきた活動を続けている。生徒にとって意義があり、ぜひ体験させたい活動である。その一方で、教員側からすると大変負担があるものとなっている。今後も継続するために実施方法などを考え直すことも必要である。</p> <p>【総合進学系列】今年度、連携講座の内容を変更し、よりよいものになっている。前向きに取り組んでいた。ただ、他の系列が何をしているのかわからないこともあるので、横のつながりを深めていきたい。掲示板を利用し、系統で取り組んでいる内容を知らせるように工夫した。</p> <p>【特進コース】「アドバンス講座」「大学訪問」を企画実施した。今後も継続することで、生徒の進路意識が高まることを期待している。特進コースの主任に任せきりのところがあり、教員全体で関われるようにしたい。</p>	<p>⇒(学校から)コロナの中、行事が何もできなかったところから、今年度ようやくコロナ以前の通常に戻ってきたところだ。以前の活動がどのように行われていたのか、知らない教員も多くおり、今後はチームの連携が課題になってくると思います。</p>
	4	教科活動	教科の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な教科の運営に協力できたか	A	<p>【全体として】 ・新課程が導入され、各教科の指導方針のもとこれまでの反省点を生かしつつ「観別評価」を踏まえた授業が展開されている。 ・学習活動において「目的・目標」「養成したい能力」を明確にし、どの様な「仕掛け」をすれば有効なのかを模索しながら進めている。 ・課題や確認テスト等、いわゆる学習成果の「みとり」については、その頻度、タイミング、量やバランスについて、生徒に負担がかりすぎないか検討し調整するなど、教科間で横断的にコミュニケーションをとりつつ実施している。 ・教材については、従前の良さを踏襲しつつも、時代や目的に合った新しいものを取り入れていくようにしている。 ・各種検定については、学校をあげて検定に挑戦しやすい環境を作っている(「一斉漢検」など)。</p> <p>【国語】 ・教科主任が綿密に計画を立て明確な指示をし、やる事が明確になった。 ・適正な評価の在り方や、授業で扱う教材の共有化をすすめた。</p> <p>【数学】 ・今年はiPadをたくさん使うことを目標とし、授業の8割以上で使用できたことは良かった。生徒が使い方を教えてくれ、とても楽しく有意義に授業で使用できた。 ・横並びの科目ではこまめに進度や小テストの回数など確認し、協力して成績評価ができた。</p> <p>【英語】 ・英検、各種行事にも連携して取り組めた。学校全体で今以上に英語のイベントを企画したい。 ・次年度は教科の枠を超えて、グローバルに力を入れた教育を実践したい。</p> <p>【社会】 ・評価において事前に教員間のすり合わせを行った。</p> <p>【理科】 ・理科の授業ではできる限り「仮説」を考える時間と、結果から「考察」する時間を特に重要視した。高校の生物でも、生物基礎でやったことから結果を推測したり、結果としてどのような現象が眼に見える形で起こるのか、を意識して授業した。 ・研修に積極的に参加し、ICTの活用にも取り組んだ。また、活動内容などを教科内で共有した。</p> <p>【体育】 ・お互いフォローしながら取り組めた。ベテラン揃いのなので若い教員を招き仕事を引き継いでいく必要がある。</p> <p>【音楽】 ・専任1人の体制で、成績のルーブリックを作成するのが大変だった。しかし生徒に教えるだけの授業ではなく、生徒が自ら考えて調べて「音楽って奥深い!楽しい」と思える授業を実施することができた。</p> <p>【美術】 ・生徒の力を養える課題づくりに腐心した。</p>	<p>・学校評価を実施して、どのような状況になれば成功したといえるのでしょうか。成功のイメージはありますか。</p> <p>⇒(学校から)教育はすぐに結果に出るものではありません。学校を卒業し、社会に出て活躍できる人材になってくれれば、うれしく思います。「常葉の卒業生です」という方に、さまざまな場面でお会いします。そのように各所で活躍されていることが、成功のイメージです。</p>

区分	No.	評価項目	評価内容	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
学習指導・教務関係	1	教科指導	生徒の学力の定着、向上や学習意欲を引き出し、生徒の満足度の高い授業実践ができたか	<p>【全体として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用を積極的に行い、生徒自らが学びに向かう姿勢を重視する授業を目指した。 観点別評価については、教科で話し合いを重ね、さらに生徒が前向きになれるような形を、今後も目指していきたい。 生徒の学ぶ力を伸ばすにはどのようにしたらよいか、教員も悩み、試行錯誤をしながら取り組んでいる。 <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新課程に移行し評価の観点や方法が変わり、戸惑いながらも工夫を凝らしつつ積極的に良いものにしようと努めた。ただ「みとり」をすることが目的化し、本来の目的が後回しになる傾向があるので、注意したい。 観点別評価により、限られた授業の中で、成績をつけるための授業にならないように気を付けたい。何のための小テストなのか、生徒に明確な位置づけをして、学習意欲をできるかぎり高められるような指導を心掛けたい。 高1の授業を担当し、改めて中学での基礎学力が大事だと認識した。中学生に求めるレベルや定着度合いの確認についても、実施の仕方を工夫した。特に口語文法や四字熟語など土台固めてほしい安定感が違うことがわかった。 3年生の授業で最後の振り返りを通し、古典の面白さに気づいたとの回答を複数得ることができた。 <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTなどの新しい授業に着手したこともあり、実験的な授業が多くなり教材研究が不足した。 振り返りを多様化し、適切な評価ができるよう努めた。 iPadの使用に力を入れた。生徒も楽しく使ってくれた。来年は電子黒板導入に期待し、もっとICTに自分も慣れて使いこなせるようにしていきたい。 生徒の活動をもっと増やし、自学に繋げる課題をバランスよく出したい。 <p>【英語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を通してどんな生徒を育てたいかを常に意識し、その過程となる授業の方策、やり方の引き出しを増やしていきたい。また、今後の授業には、より探究的なものを取り入れていきたい。 基礎学力の定着を目標に、プリント、タブレットの利点を生かした授業を行った。まだまだ可能性を残しており、生徒の課題提出方法など含めて工夫したい。 <p>【社会 地歴 公民】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書かせる指導をおこなった。具体的にはレポート、天声人語の見出し付けなど。また、“本物”を見せる授業に取り組んだ。具体的には、静岡地方裁判所の出前講義、静岡市議会議員の方々との意見交換会を行った。来年度も継続したい。 中間テストを廃止し単元テストを実施したことで、学力の定着をはかることができた。 調べ学習やグループワークなど、さまざまな形態の授業が行われるようになってきた。 <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いや考察の時間を意識して設け、理解の過程を大事にすることを心がけた。 仮説、考察ともに「なんとなく」という理由以外でノートにまとめるように指示し、班の中で伝えあうことで、教え合い活動を通して考える力を養おうと試みた。 <p>【体育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テストを毎回実施し、生徒の理解度を把握できた。 自分から体を動かすことが苦手な生徒が多い中、教員の指示の出し方や目標設定を明確にすることで、生徒は前向きに取り組むことが出来た。 <p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が興味を持てるような「新聞」作成をし、生徒自身に調べさせ解釈をさせることにより、理解を深めることができた。 定期的にワークチェックができず、学期末の処理が大変だったので、課題の点検方法も工夫したい。 	<p>・コロナの影響が大きく、マスクを外せない生徒が多いのではないのでしょうか。人の顔、表情をしっかりと見ることがないまま成長していくことを危惧しています。体育の授業でも、持久走でも、マスクを外さない生徒もいて、マスクの問題は根深いと感じています。顔を見せることに抵抗を感じる生徒に、どう対応していくか、本気になって考えていかなければなりません。</p>
	2	授業規律	私語や居眠り等を放置せず、落ち着いた雰囲気を作って授業が実施できたか	<p>・話し合いの時間と和気あいあいと話す時間のメリハリをつけさせた。</p> <p>・主体的に取り組めるように問題を解かせたり、意見交換をさせることを意識した。質問を多くした。</p> <p>・風紀面、挨拶はやり直しをさせ、まずは授業の開始をしっかりと指示した。課題は提出させるまでなるべく声掛けを行った。科目への苦手意識を持つ生徒に対し、テスト前に補習を行うことで理解を深め、知識の定着をはかれた。</p> <p>・個々の教員の頑張りは見られるが、学校全体の風土として全職員が積極的に声掛け・参画していく所までもっていききたい。</p> <p>・生徒を飽きさせないような授業づくりを工夫したい。</p> <p>・ペア活動をこまめに取り入れ、声を出す機会を増やしている。改善したいのは、手に何かをもったままの挨拶を止めることで、形式だけにならないように考えさせたい。</p> <p>・真面目に学んでいる生徒の満足度をあげるためにも、教員側の姿勢に改善の余地がある。また指導力もあげていく必要があるのではないかと。</p> <p>・生徒の様子を観ながら、個人で考えを深める時間(静)と巻き込み型(動)授業を混ぜた。そして、書き方の形式にとらわれないレポート形式を増やしたことで、改めて生徒の創造する力を引き出すことの重要性を感じた。それと共に、決して堅苦しくはないが、集中して取り組んでいる、という雰囲気づくりが実践出来たと思う。</p>	<p>・学校も個人からチームでの活動に変化しています。変化に対応し、変わっていくために、具体的な行動に移していくことが大事なのだと思います。</p>
	3	欠席・遅刻抑止	遅刻・欠席が多い生徒の状況把握や改善への働きかけができたか。	<p>・保護者への連絡、本人と話をし、原因解決に努めた。</p> <p>・副担任として、朝のSHRの代行を行うときには、いない生徒の保護者に必ず電話連絡を行った。理由等を必ず確認して担任に引き継いだ。</p> <p>・コロナが深刻な状況下では、学校に無理してこないように、という指示だった。コロナ対応が緩和された今、生徒・保護者の遅刻・欠席等に関する感覚がコロナ以前の感覚に戻っていない傾向が強いと感じ、指導に苦慮している。</p> <p>・欠席、遅刻連絡が生徒自身も親御さん自身も丁寧にしてくださる家ばかりで助かった。</p> <p>・遅刻・欠席が多くなりそうな生徒とは話をする機会をつくり、悩みを溜め込まないように促した。</p> <p>・欠席の多い生徒に対しては、それぞれの状況に合わせて対応しているが、今後も体制を整えていきたい。</p>	<p>・欠席する生徒の理由はどのようなものなのでしょうか。</p> <p>⇒(学校から)理由はそれぞれですが、人間関係への不安などもあります。欠席等の連絡は、保護者から学校へメールでお願いしています。家庭と情報を共有して対応するようにしています。</p>

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
生徒指導・ 総務関係	1	生活指導	服装・頭髪等の違反者の生活指導や、言葉遣い、挨拶などマナー教育が徹底できたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登校の時、副担任が正門で声掛け指導を実施した。 ・制服の乱れはその場で指導をし、なおさせた。気候の変化が激しくジャケット着用の統一をはかれなかった。暖かいせいかジャケットの前ボタンを外している生徒がよく見られた。 ・学期に1回の風紀検査でも、髪型に関しては違反者は少なかった。 ・言葉遣いは比較的落ち着いていた。一部の生徒にはいるいな先生方から指導をしたが、なかなか改善にいたらなかったことは残念だった。 ・より身近にいる担任が気が付き生徒指導をするようにしていきたい。朝と帰りのSHRの中で担任は連絡事項だけではなくそれ以外の話をする事で充実した時間とした。 ・世の中の流れはふまえつつ、ルールをきちんと守らせることも必要だと考える。多様性を受け入れるとは、好き勝手に行動することを許すこととは違う。注意を促すことを教員が諦めないようにしたい。 ・教員の意識を統一し、どの教員も同じ基準での指導をしていけるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性、自律性を養うための取り組みの工夫を、今後も続けてほしい。 <p>⇒(学校から)校則やルールについては、以前と比べ変化しています。風紀検査も、内容や回数も大きく変更しました。生徒自身がルールについて考えるような指導になっています。</p>
	2	学校行事	生徒を主体的に動かし、各行事のリーダーを育成することができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から体を動かす事が苦手な生徒が多い中で、どうしたら楽しく取り組めるかを考えて活動をした。 ・リーダーになる、責任がある、前が出る、というポストを生徒は避ける傾向にあるので、前向きに活動できるように工夫したい。 ・各行事では、教師主体の活動が多い中、リーダーを決め、リーダー中心に企画を考え活動ができていた。しかし、もう少し生徒主体で行事に取り組むことができたのではないかと。やり方の工夫が求められる。 ・生徒に任せるということは、まったく手を出さないということではなく、そのバランスが難しい。教員間の連携と協力が不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが抱える課題は大きいので、教員だけでなく、スクールカウンセラーや外部機関の力を借りながら、取り組む必要があると思います。
	3	教室・校内美化	清掃指導を徹底し、教室や校内の美化に努めることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃に対する意識の高い生徒が多く、教員の声かけ次第でさらに熱心に清掃に取り組む傾向がある。 ・クラスによって、清掃への取り組み方に差があった。教員の指導に左右される点があった。 ・清掃場所と清掃人数のバランスを工夫すると清掃への取り組みもしやすい。 ・生徒の取り組み方を批判する前に、教員に何ができるか、教員が気づけるか、どう指導するかが大きなポイントとなるのではないかと。まだまだ改善の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校から)コロナの影響もあり、消毒への意識は高く、清潔を保つ習慣が身についていると考えられます。
	4	貴重品管理	朝のSHR時に貴重品提出を徹底できたか。記録用紙に未提出者を記録したか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学は、朝のSHRで、各クラスごと貴重品、スマートホンを管理する習慣が出来ている。今後ICTの学習でタブレットの活用が多くなることでスマートホンとは別に管理の仕方を考えていかなければならない。 ・貴重品管理についても、クラスの差が大きいと感じる。生徒の自主性に任せるといふ名目で、教員の仕事をおろそかにしている面があるのではないかと。必要なルールなのか、そうではないのか、年度初めにしっかり教員の意思統一をはかりたい。 ・貴重品の盗難や紛失の報告はほとんどないので、貴重品の管理の仕方を見直してもいいのではないかと。 ・どこまで教員が関わり、どこまでを生徒に任せるとするのか、明確にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の紛失や盗難がないとはいえ、貴重品の管理については、今後も継続してほしい。
	5	防災・防犯	防災や防犯の意識を向上させることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内では防災訓練が1回しか実施が出来なかったため、生徒には、地域の防災訓練に参加をするように伝えた。 ・防犯教室の中で警察官の方に話をしてもらい防犯に対して考えさせた。 ・SHRの中で担任から防災、防犯の注意を伝えた。 ・防災関連を1回実施したことで、防災教育はできていると考える教員と、これでは足りない、やり方の工夫をすべきという教員に別れる。教員間の意識の差が大きい。 ・日常的に、担任から生徒に向けて防災に関する情報を発信している教員もいる。一方で伝えてくださいと言われたときだけ話をするという教員もいる。 ・まずは教員の意識改革から始めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所について、どこが安全なのか、どこで家族と会うのか、現実的なことを考えて想定する必要があると思います。家庭との連絡の取り方も、いざというときに役立つ方法を考えておくべきでしょう。防災教育の強化を行ってほしい。 ・地域防災訓練への参加は、学ぶことが多くあるので、ぜひ参加するよう学校からも積極的な声かけをお願いしたい。
	6	部活・生徒会	部活や生徒会を活発にし、生徒の育成ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動では、コロナも落ち着きコロナ前のような大会、活動が少しずつ戻ってきた。生徒のモチベーションも高まり部活動に集中して取り組むことができた。 ・部活動終了後の下校時刻を守ることのできない生徒がいた。担任、顧問からの声掛けを行い、早く帰宅するように促した。 ・生徒会活動も、企画運営ともに生徒主体で取り組むように考え、教員はあくまでヒントを与える立場で行った。 ・今年度は文化祭で、生徒会はクラスTシャツコンテスト、3年生は販売を行うことができた。 ・部活動に参加する生徒、しない生徒、参加しても積極的ではない生徒がいて、それぞれの対応に苦慮した。 ・コロナによる活動制限がなくなり、これからどのような活動をするかが大事になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクについての実態を教えてください。 <p>⇒(学校から)なかなかマスクを外せない生徒は多い。ほとんどの生徒はマスクをしています。部活動でも、運動部の生徒はマスクを外しますが、文化部の生徒はマスクをしたまま活動しています。</p>

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
進路指導	1	進路意識	進路行事や進路情報の提供等を通して、生徒の進路意識を高めることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごと進路ガイダンス(高3・6月、高2と高1・10月)を行った。必要に応じ、機をとらえた進路講話を行い情報提供や進路意識を高める指導を今後も継続していきたい。 ・高2の進路ガイダンスでは、学校比較を行った。常葉大学以外の大学や看護学校にも参加していただき、生徒の視野を広げるようにした。同じ聴講でも少しずつ内容をバージョンアップさせた。 ・進路が明確でない生徒に対しては「連携講座」や「適性検査」「学部・学科(職業)調べ(高1)」「オープンキャンパスに行こう(高2)」を通じて進路選択について考えさせ、併せて進路視野を広げさせた。 ・附属高校入試2年目、多くの生徒が常葉大学に進学する。教員間の情報共有が進みトラブルなく出来たことに安堵している。入学後も困らないように基礎学力の向上に引き続き務めたい。 ・中学生にとっては、高校生の姿を間近に見られることで、進路への意識が高まった。 ・教員の意識の持ち方で、生徒の意識が変化する部分もあると思う。 ・進路課中心で進路指導するが、単なる生徒への情報伝達にならないように教員は継続した指導を行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の話を聞く機会があったとき、素直にアドバイスを受け入れることができ、検定に挑戦しようという意欲がわいてきたように思います。
	2	学力対策	授業や補習、朝学習等を通して、生徒の進路達成のための学力向上ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を心がけることに加え、調べ学習やグループワークを、NIE(新聞活用)、プレゼンテーションの機会を設けるなど「アクティブラーニング」を意識した授業を実践した。今後は「探究学習」につなげていきたい。 ・附属高校入試に向けては高1・2年生からGTZや評定平均を意識させて、個々に具体的な目標を立てさせた。またタブレットを使った、授業展開や課題配信を行った。今後はICTに関わる研修をさらに推進したい。 ・部活動や学校行事、各種ボランティアや検定に積極的に努力させ、生徒の自信につなげたい。 ・意欲の高い生徒を鍛えるための補習や自習室の提供をもっとしていきたい。 ・中学では放課後学習を計画的に行えた。 ・高校の補習は工夫する余地がある。 ・生徒に求められるからやる、求められないから(希望者がいないから)やらない、という基準ではなく、学校としてどのような生徒を育てたいかを軸にして補習のあり方など考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校から)附属高校入試は一般入試よりも早くに進路が決定してしまいます。基礎学力の向上に継続して務めていきたいと考えています。
	3	学力分析	定期試験や、模試等の結果分析をすることで、生徒にアドバイスをすることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディサポートを年2回行い、学力と学習習慣の推移を分析した。高1・2年生は学力伸長が見られた。また1年全員と2年特進はスタディサブリ(リクルート)を導入したので今後は課題配信や、到達度テストを意欲的に取り組ませたい。 ・模試の結果分析シートを用いて面接週間の中で学習方法のアドバイスができた。また生徒もグループフォームで反省をまとめ、次回のテストに向け計画的に取り組めるようになった。 ・点数や偏差値にこだわるより、弱点の確認や次回の具体的な目標などについて、もっと時間をかけて生徒・教員間で共有し実際に取り組めるようにしたい。常葉大学の附属だからこそ取り組める方法だと思う。 ・小テストや動画など、学習材料は多くあるので、それをいかに利用し活用できるか模索したい。 ・学習計画を立てる時間を確保したい。計画を立てるときに教員からアドバイスをすれば、取り組み方に変化があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校から)模試のあと、点数や偏差値にこだわるのではなく、弱点の確認、次回の対策を徹底するなど、先を見据えた学習につなげていきたいと考えています。
	4	キャリア教育	連携講座(高校)またはキャリア講座(中学)の目的を理解し、生徒の取り組む意欲を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連携講座を通じて生徒のキャリア意識を向上させることができた。生徒たちは意欲的に取り組み、大学からもレポートがよくまとめられていると評価をいただいた。特にピアノ、オペレッタ等の表現活動に力を入れた保育講座など専門講師からの直接指導が生徒に良い刺激となった。来年度はより探究型になるように準備を進めている。 ・高校の連携講座がよりよい形で継続されるようにしていきたい。また、中学の探究活動も結果が出ており、生徒の成長の早さ、深さには驚かされる。生徒の成長に合わせて、教員も研修を重ねていきたい。 ・担当者任せではなく、教員も連携講座に積極的に関わられるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高大、中高の連携だけでなく、小学校とのつながりも深めてほしい。 ・橘小学校4年生との交流も、学校への良いイメージにつながったようです。
	5	資格取得	各種検定の奨励や、資格取得のための事前指導ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉漢字検定を実施し、生徒は達成感と、仲間と切磋琢磨することもできる喜びを感じられた。英語検定や数学検定も同じようなやり方ができるとよい。 ・資格取得は附属高入試や推薦入試に欠かせないものになっているので、学校全体でも取得の取得に向けての雰囲気盛り上げていきたい。 ・教員の声かけ、事前指導が丁寧でできていた。今後も継続できるように工夫したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で検定を受けられるとありがたく思います。みんなが検定に挑戦する機会があると、努力できる生徒が多いのではないのでしょうか。また、いろいろな検定があるときには、知らせてもらえると、挑戦するきっかけになります。
	6	保護者との連携	生徒や保護者との面接を通して個別に生徒の進路意識や学習意欲を向上させることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、面接週間を設けている。教師が一方的に話すのではなく、生徒に語らせる、あるいは生徒や保護者の話をじっくり聞くようにお願いしている。受験を控えた3年生には、模試の結果(個票)を使い、今後の学習課題を話し合った。担任の準備は大変だが、「楽に早く、進路を決める」のではなく、しっかりと学力をつけ進路目標の達成のため、誠実に取り組むことの必要性を訴えた。 ・保護者との面談では、言葉選びが重要だと感じた。 ・数分の時間でも、生徒と話す時間をとることが大事だと考える。日頃から話しているかどうかは、信頼関係につながるのではないか。 ・中学では、こまめに保護者と連絡をとり、保護者から何か連絡があったときには丁寧に対応するよう心がけた。保護者との信頼関係は深まったのではないかと。 ・親子進路ガイダンスの実施、進路の手引きの発行を実現させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携、家庭を巻き込むことは、非常に大切だと思います。これからは、学校だけではなく、家庭、地域など大人を巻き込んで課題の解決をしていく必要があります。